

絵本の保育

子ども達は絵本が大好きです。絵本の世界で想像の翼を広げ、空想の世界で遊ぶことの楽しさを知った子ども達は、逞しく生きる力を身につけてくれるでしょう。幼い頃に出会ったすばらしい絵本の印象は、深い感動を伴って子ども達の心に残り、生涯にわたって生き続けることでしょう。

本園では「子ども達の手の届く所にすばらしい絵本環境を！」を合言葉にして、園文庫を中心にクラス文庫、家庭文庫と充実した絵本環境を整えながら、開園まもなくから今日まで 50 年近く、絵本の保育に取り組んでいます。0 歳から 5 歳まで、それぞれの年齢にふさわしい絵本を選び、毎日の保育の中で繰り返し読み聞かせています。またその読み聞かせをもとにクラスで劇遊びやオペレッタに取り組むことで、絵本をさらに深く味わうことができます。こうした絵本の保育を通して情操豊かな子、考える子、想像力、創造力の豊かな子に育てたいと願っています。



また絵本の世界は子ども達にとって、心休まる世界でもあり、親とのコミュニケーションを楽しむ世界でもあります。家庭の日常会話では、つつい忙しいために「早くしなさい！」と、せかしたり、子どもの質問にも「あとで！」と聞き流したりすることがありがちです。

特に共働きの家庭の朝晩の忙しさは、経験者でなくても容易に想像できます。そんな忙しい日々の中でせめて夜寝る前のひととき、かわいい我が子のために絵本を読んであげてほしいのです。

子どもたちは他の誰よりも、大好きなお母さん、お父さんに絵本を読んでもらうことを喜びます。子どもたちは毎晩の絵本の読み聞かせからお母さんやお父さんの愛情を感じとります。それが情緒の安定につながり、親子の心の絆をより一層深めていきます。それこそが絵本の保育のねらいであり、そのために保育園では様々な取り組みをしています。



<園文庫について>

本園では「絵本の部屋」に 5000 冊を越える絵本や児童書の蔵書の数々が、ところ狭しと並べられ、子ども達の手にとられて読まれるのを待っています。毎週木曜日から金曜日には 0 歳から 5 歳までの全員の園児が、この書棚から 1 冊ずつ借りて、家庭に持ち帰ります。0・1 歳児は保育士が選んだ絵本を、2 歳以上児は自分で好きな絵本を選びます。そしてお家で木、金～日曜日の間にお母さんやお父さんから子どもたちのため

にしっかり読み聞かせをしてもらって、月曜日に園に返却します。

園文庫の貸し出しは、次のような規約のもとに行っていますので、みんなで約束を守って大切にしてください。

☆園文庫貸し出し規約☆

- 1、家庭で読み、話し、感動し、絵本で豊かな心を育てましょう。
- 2、毎週1回、木曜日が金曜日に貸し出します。月曜日には、返却して下さい。
- 3、本は、大切に扱きましょう。
 - ・読む前には必ず手を洗いましょう。
 - ・本を破ったり、落書きするのはやめましょう。
 - ・万が一破ったり紛失した場合、担任まで必ず連絡してください。
- 4、持ち帰った絵本は家族みんなで一緒に見ましょう。
- 5、兄弟で園に来ている場合は間違えないように返却しましょう。
- 6、貸し出しの絵本についてご希望がありましたら、木曜日の朝までに申し出てください。
- 7、貸し出した絵本を返却されてない場合、次の貸し出しが出来ませんのでご了承下さい。

☆園文庫の絵本感想カードの記入の仕方☆

子ども達は毎週の貸し出しをととても楽しみにしています。そんな子ども達のお家での様子や親子の会話、絵本の感想などを記入してもらうために「絵本感想カード」を作っています。絵本が家庭でどのように読まれているのかを把握すると共に家庭の中で絵本に対する関心が少しでも高まることが目的です。

月日	本名	子どもの声・様子	読んだ回数	興味	保育士
10/24	ぼくのうちの どうぶつえん	「どうして犬がおるん、どうして？」 おうむの「おはよう」を見て「遠足の時におうむがおったんよ」と教えてくれました。	イ0回 ロ1～2回 ハ3回以上	イなし ロ少し ハある	動物園は楽しかったね

<クラス文庫について>

各年齢に応じた絵本を各クラスに20～30冊ずつ、子ども達がいつでも読みたい時に読めるよう、子どもの手の届くところに置いてあります。自由遊びの時に読んだり、朝のお集まりやお昼寝前などに保育士に読んでもらったりしてしっかり絵本と触れ合えるようにしています。

<家庭文庫について>

絵本を通して子ども達をより豊かに育てるために、保育園では毎月、あるいは隔月に必ず全園児に園で選んだ課題絵本を、家庭文庫として購入してもらっています。その課題絵本は、長年の実践の中から選んだ評価の高いすばらしい絵本であり、子どもたちも大好きなものばかりです。

出来るだけ毎月購入して、家庭文庫を充実させ、親子で絵本を楽しんでください。きっと子ども達が大きくなっても、幼い頃に読んでもらった絵本の印象は、読んでくれた人の愛情と共にいつまでも心に残るでしょう。